

【本とあそぼう】おはなし隊

こぶたの会 小松かおり

私が読み聞かせボランティアを始めるきっかけになったのは、平成十二年二月に都留市社会福祉協議会が主催した「絵本読み聞かせ講座」に参加したときのことでした。その頃はまだ都留市に絵本の読み聞かせボランティアはなく、参加したメンバー数人で、「都留市にも読み聞かせボランティアを立ち上げよう」と「都留市読み聞かせボランティア『こぶたの会』」を発足させました。発足はしたものの右も左も分からぬ私たち、それならば、まずは基本から学ぼうと発声練習やアクセントの勉強、本番を想定しての読み聞かせ、と練習を重ねていきました。

そんな中、私たちに大きなデビューのお話が舞い込んできたのです。それは、平成十三年二月に大月市民会館で行われた図書館ボランティアの集いでした。いきなりのデビューが大月市民会館の大舞台で、すっかり戸惑ってしまった私たちが、皆のやる気が一つになって大型のペープサートをつくり練習に練習を重ね見事に成功させることができました。そのことが私たちの大きな力と自信につながって、現在も私たちの活動の中に生きています。

その後、各地の図書館のイベントや都留市でのイベント、保育園、小学校などのお話会訪問を行い、徐々に『こぶたの会』の名前も皆さんに浸透していきました。

そして、私たちの目的であった市立図書館でのお話会も毎月第四土曜日の一時三十分から定期的に開催し、今では多くの皆さんに楽しんで頂いています。

これからも、大人、子どもと年齢を問わずより多くの皆さんに、お話を楽しんで頂けますよう、スタッフ全員力を合わせてがんばります。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いぎいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【古文書を学ぶ】

榎本 安男

不惑の年を迎えた頃、退職後の生活設計について思いを寄せた。その頃、郷土の歴史に興味を持ち始めていた私にとって、幸いにも文部省主催の古文書講座が開かれたので、一週間東京の教育会館で受講する機会を得ることができた。

都留市郷土研究会事業で古文書講座を設けた折、初心者向きとベテランを対象とした二講座を開講し、後者の講師を引き受けた。以来、十五年が経過し、都留古文書研究会と名付けて月一回の学習を続けている。家のお蔵の中に眠っている祖先伝来の古文書を読んで理解を深めたい。という人をはじめとして、短歌を創りそれをかな書の流麗な筆致で条幅に仕上げる人。郷土史を学びまちの文化遺産を守るために先頭に立つ指導者。NHKの古文書講座で力をつけた人。元保母で文学を愛好する人。と、その顔ぶれはまさに多士済済。なかでも、元保育園長を勤めた九十二歳の先生、先生は解読文を丹念に原稿用紙に清書して冊子にまとめ、その数は机の傍らに山の如くに積み上げる。「古文書を読むことが楽しい」と研究会を欠かさない。このような会員、男性三人、女性七人で会はいつも盛り上がりつつある。

古文書を繙読することによって、何百年、何千年もの過去へ飛翔することもでき、そこでの発見の喜びや驚き、そして感動などを実感することができる。過去を学び現代を、そして未来への夢を描くことが可能なキッカケともなる。

これまでに、江戸時代の年貢の割付や皆済目録、五人組帳、宗門人別帳の前書き、村の暮らしの村議定・村定などの村方文書、秋元公の川越藩転封にかかわる文書など数多くの史料について学んできた。

三年程前から、変体がなを多く取り入れてある古典文学の古文を教材としている。鎌倉時代の鴨長明の著した「方丈記」、次が兼好法師の「徒然草」、そして今は、平安時代の清少納言の随筆「枕草子」(能因本)を学習している。休憩時間には、身辺雑事から、地域社会の様々な出来ごとの情報交換の場を持つたり、時には体験談の披露もあったりする。和やかな中で、励まし・支え合いながら、共に学び、楽しいひとときを想う、学習の場として今後も続けていきたいと思っている。